

用集にも亦『十月廿八日道元和尚忌日』と載せてゐるのは誤であらう。

ドウゲン **コウンテツウサンダイソク** **キョウ** **ウジヨウキ** 道元孤雲徹通三大尊行状記 道元以下三祖の直弟隨侶の執筆に係る曹洞最古の史籍で、大乘寺の所蔵に係る。

トウゲン **東源寺** 鳳至郡門前曹洞宗總持寺の山内に在る。もと同山内洞川庵の所屬であつた。文祿元年寶山の開基。

ドウゲン **ジャク** **道元尺** 檢地に使用する六尺三寸の竿をいふ。御定書に『檢地竿六尺三寸也。道元尺と唱候由、安見瀬兵衛申聞候。』とある。

トウコウ **棹江** ↓トミタヤトウコウ 富田屋棹江。

トウコウ **イン** **東光院** 石川郡下安原に在つて、曹洞宗に屬する。もと野々市大乘寺なる境内に瑩山紹瑾守塔の爲明峰素哲の建てたものであり、大乘寺と共に諸所に移轉したが、明治六年類焼し、十七年新たに今の所に再建した。

トウコウ **ウキ** **東行記** 一冊。澤田富庵が父宗堅と共に、寛文九年前田綱紀の東觀に先行して江戸へ出た時の紀行である。

トウコウ **ウジ** **東光寺** 鹿島郡濱田に在つて、曹洞宗に屬する。大正六年遠江周智郡森町桶から移轉し來たものである。

ドウ **コウ** **ウジ** **道興寺** 羽咋郡館開にあつて、曹洞宗に屬し、法林山と號する。正慶二年地頭得田章通の次子館開祖生之を開創し、明峰素哲を崇んで開山とした。後久しく住持を缺いたが、得田秀章の三子以竹瑞貞之を中興した。當寺に天文十六年四月廿八日附得田佐渡

守入道秀章の寺地寄進狀、及び天正七年六月廿八日附前田利家の寺領安堵狀と、得田氏累代の位牌がある。

ドウ **コウ** **ウジ** **洞光寺** 鳳至郡前波に在つて、曹洞宗に屬する。元亨元年重庵至簡の創立で、初め武連の二子山麓に在つたが、寛文元年穴山玄虎の時今の地に轉じた。塔頭慶光寺は元和二年玉田の建立であつたが、今存せぬ。

トウ **コウ** **ウシ** **コウ** **東嶽初稿** 二冊。加賀藩の老臣東嶽横山政禮の詩集で、明和六年の序跋があり、刊行せられてゐる。

ドウ **コク** **ザツ** **シヨ** **洞谷雜書** ↓チユウコウザツキ 中興雜記。

ドウ **コク** **ザン** **オキ** **ブミ** **洞谷山置文** ↓エイヤンオシヨウオキブミ 瑩山和尚置文。

ドウ **コク** **ザン** **ツケイ** **洞谷山十景** 鹿島郡永光寺附近の景勝を、瑩山紹瑾の選んだもので、踞猿嶺・集雲峰・運水峰・粟生原・烏石谷・巫女原・埋死谷・掛鞋榎・勝蓮峰・飯盛塚である。各景ごとに瑩山の詩がある。

ドウ **コク** **ジュウ** **ウサン** **キ** **洞谷佳山記** 一冊。鹿島郡酒井永光寺では、寛永八・九年の頃まで禪僧出世の道場であつたから、開山以來の住持及び出世僧の年曆等を記したものである。

トウ **ゴ** **モノ** **ガタリ** **藤五物語** 一冊。芋掘藤五郎のことを國文で綴つたものである。この書に於いては藤五郎を加賀介藤原の何がしが末としてゐる。金澤伏見寺縁起も内容略藤五物語に同じいが、行文頗る佛臭を帯び、且つ藤五郎が天兒屋根命の苗裔で、能登國高屋の郷士刀禰長房、同國島山の臥行者等の同胞であることを附會した點に於いて異なつてゐる。

トウ **ゴ** **ロウ** **ウイ** **ケ** **藤五郎池** 石川郡三小牛に在つた。芋掘藤五郎の穿つた池で、大暑にも濁濁せぬといふが、今所在が明らかでない。三小牛村の道路側なるがめ池のことかともいふ。

ドウ **ゴ** **ロウ** **マツ** **藤五郎松** 石川郡山科にあつた。加賀古跡考に芋掘藤五郎が黄金を以て鑄させた彌陀・藥師の兩像を安置した堂の跡として、松一樹を植えて、今に藤五郎松といふとある。明治三十七年枯死した。

トウ **ザイ** **ヤワ** **東西夜話** 二冊三卷。美濃の俳人支考著。元祿十五年京橋屋治兵衛板。上巻は義仲寺から彦根を経て、山中・金澤・石動・井波・城端等に至る間、中巻は魚津から敦賀に至る間の夜話及び名録を載せ、下巻には明山伏と題して、許六・浪化が饒別に贈つた百韻二巻がある。

ドウ **ザ** **カヤマ** **動坂山** 鳳至郡赤崎の部落から南方の山。高さ三二二三米。

ドウ **シ** **同氏** 藩政時代に、父子苗字を同じくするものを同氏といふた。子に對して他人が御同氏様といへばその父のことであり、親が他人に對して同氏某といへばその子のことである。本支の間柄では、同姓というて同氏とは言はなかつた。

トウ **ジ** **イン** **リヨウ** **等持院領** 京都等持院領に能美郡栗津上下保があり、應永十六年九月の關係文書がある。

トウ **ジ** **コウ** **ソウ** **陶磁考草** 一冊。加賀・越中と角書がある。松増加藤恒が二國製陶の沿革に關して研究したものである。明治廿八年活版に附せられてゐる。

ドウ **ジ** **セキ** **動字石** ↓テンカンセキ 天漢石。

ドウ **シ** **ユウ** **道秀** 能美郡小松の人。加越鬮評記享祿四年朝倉宗滴加州から納馬した條に、『十一月七日に越前へ歸陣ある所、小松の道秀・藤塚の二木・出口の齋藤・安宅の今井藤右衛門以下二千餘人、大將に相從て來る。』とある。

トウ **ジ** **ユン** **キコウ** **東巡紀行** 一冊。松帆亭龜集の名を以て錢屋五兵衛の手記したもので、文政四年二月十六日金澤を發し、下街道から、信濃・上野を経て日光に詣で、江戸に入り、鎌倉・江の島に遊び、東海道を過ぎ、四月二日歸郷して居る。沿道の各驛と里程を擧げ、それに觸目を附加してある。

ドウ **ジ** **ヨウ** **道乘** 蓮如の頃の一向門徒で、河北郡砂子坂の人といふ。榮玄聞書に、『蓮如上人吉崎に御座の時、加州河北三番すなごさか道乘と申ひと門徒なり。本尊を望み申され候。本尊名號を以て身を七重八重にまとひたりとも、信をえずは佛になり候まじく候。』とある。

トウ **シ** **ヨウ** **ウグウ** **東照宮** ↓ヲサキジンジヤ 尾崎神社。

トウ **シ** **ヨウ** **ウグウ** **サイレイ** **東照宮祭禮** 金澤城内の東照宮祭禮は、四月十六・十七日に行はれた。この日家中・町方の男女參拜を許され、留守居組付與力及び歩横目は警戒の任に就き、社殿の内外に足輕を配置せられた。

ドウ **ジ** **リガハ** **堂尻川** 石川郡蓮池の南に於いて前川・平瀬川の二流相合して日本海に入るものをいふ。

ドウ **シ** **リヤ** **堂後屋** 元祖三郎右衛門は、